

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2692100023		
法人名	社会福祉法人 成相山青嵐荘		
事業所名	グループホームせいらん(かさまつ)【評価結果は2ユニット総合評価結果である】		
所在地	京都府宮津市宇小松下ヶ濱326番地の1		
自己評価作成日	令和4年10月4日	評価結果市町村受理日	令和5年1月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームせいらんは平成24年3月に開所し今年で11年となります。穏やかな阿蘇海の海辺に木造建て居室からは馴染みのある天の橋立松並木や花火が望める環境です。ここ2年はコロナの関係で出来ませんが、小学校やこども園・事業所の祭りや地区文化祭などの地域住民との交流を積極的に行ってきています。今年度は、コロナ禍で可能な限り実施していこうと考えております。また、ご飯作りや掃除・畑仕事などで出来る事や役割や出番、その日の過ごし方や食べたいもの・行きたい場所・したい事などの自己決定や楽しみがあります。職員は、法人理念である“生きる喜び、生きる楽しさ、生きる尊さ”を実感できる暮らしの実現を目指し、いつも笑顔で対応するという事を目標に日々の生活の中で介護支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2692100023-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigvoCd=2692100023-00&amp;ServiceCd=320</a>
----------	---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の権利擁護を大切にされ、ゆっくり、ほっこり生活していける場の提供を大切にしながらも、利用者を尊重した支援の提供に努められています。コロナ禍の制限下において、外出機会が大きく制限される中、施設内で行える行事の拡充、地域の児童施設とリモートでリアルタイムに交流する事を導入され、また、地域の文化祭への参画される等、地域との交流維持にも配慮されています。感染症対策に配慮した面会室を新設し、制限期間中でも面会が可能な機会を創出されています。施設近隣が海際至近であり、海辺へ散歩に出かける等、可能な範囲での外出を行う事で、外気浴、季節を感じていただく機会の維持を心がけられています。入浴は、利用者の希望に沿った入浴機会の確保に努められており、予定浴以外での入浴希望を基本的には実現されています。職員と利用者が共に楽しむ活動できるイベント実施に努められています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人ば・まる
所在地	大阪府堺市堺区三宝町二丁目131番地2
訪問調査日	令和4年12月16日

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおお むね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	【評価結果は2ユニット総合評価結果である】	

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 評価	第 三 者 評 価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、職員倫理規定をユニット、職員会議の際に唱和をして、職員全員が理念を共有できる機会を設けている。	法人の理念は、人としての権利を大切にする事で、これに基づいた施設方針として、ゆっくり、ほっこり、楽しい衣生活の場を築きながらも、利用者個々を尊重し、大切にしたい支援の提供に繋がられるよう努められています。支援の場面でも施設方針に沿った支援が行われているかを常に意識した動きが出来るよう職員間での共有が意識されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治体の行事に参加をすることで地域の方との関係性を作ることを行っている。コロナ禍の為、現状交流の機会は少ないですが、地区の一斉清掃など外での開催するものについては可能な限り参加し地域との関りを維持する努力をしています。	毎年、地域の行事へ参画し、利用者の作品を出展したり、地域の一斉清掃への参加等が継続されています。コロナ禍の制限以前は、地域の祭事での交流等も行われていました。地域の児童施設との相互交流が行われていましたが、制限下において、リアルタイムのリモートによる交流へと手段を変えながらも継続されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの外の掲示板を利用したり、認知症安心相談窓口を継続して行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度面会・外出について制限をしているため運営推進会議についても、委員の方に文書にて報告しているのみとなっている。今年度7月開催時面会室の紹介を兼ねて外で短時間実施しました。	コロナ禍の制限下において、行政の指導に従い、資料送付と電話等による意見聴取での代替開催が継続されています。制限解除時には、短時間ですが新設した面会室の紹介も兼ね会議の開催がありました。代替開催での意見を踏まえ、施設の様子を伝えるために、画像による情報提供を拡充し、施設の様子や利用者の様子が少しでも伝えられるよう配慮されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のメンバーとして市町村担当者にもご同席いただき、ご意見をいただく体制となっています。今年度は会議の開催が出来ておらず、文書での報告となっている。	地域包括支援センターが主催する地域ケア会議への参画があります。日常の連携は、地域包括支援センターとの情報共有を主体に行われています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で身体拘束適正化委員会を組織しており、職員が学べるように研修を行っている。コロナ禍という環境の中、研修をリモート動画で行う等の工夫をします。玄関の施錠については、夜間帯行っている。	法人全体として、毎月拘束並びに虐待に関する適正化委員会が開催されています。年3回、拘束及び虐待に関する職員研修が実施されています。日常の支援の中では、言葉による拘束に繋がる事が無いよう、言葉がけにも配慮されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で設置している高齢者虐待防止委員会にて研修の場を設けている。虐待に関する事例が上がった場合は緊急会議を開いて対策など話し合いが出来る体制となっている。言葉使いにも気を配り職員間で話し合う等している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は権利擁護事業を利用されている利用者は居られないが、過去に居られたため管理者は資料を保管し必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には管理者より書面を基にご本人・ご家族等へ説明し、署名・捺印をいただいている。また、ホームの情報が分かるよう、対象となる方や事業目的をホームページに掲載している。面接調査時に説明を行う事もある。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会の際や電話等でいただいたご意見は記録し対応等を職員へ伝達して取り組んでいる。	コロナ禍の制限下において、家族等の面会希望意向も踏まえ、新たに感染症対策に配慮した面会室を設置されました。従前は、運営推進会議が意見聴取の場でしたが、対面での実施が困難であるため、電話による意見聴取に努められています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で職員からの意見を上申したり、経費削減の目的で牛乳パックや包装紙の再利用・節電・節水においても職員の意見を聞き実施している。また、年に1回の職員のストレスチェックや職員によるヒアリング調査を実施している。	職員会議の中で意見が表出されるように配慮されています。年2回職員と法人担当者との面談機会があり、法人に対する直接の意見表示機会が確保されています。職員からの意見を基に、人事考課制度全体の見直しと制度改変に繋がられています。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度人事考課制度の見直しを実施し新たな人事考課制度により、引き続き成果や達成度について双方が確認できる面談の機会があり、年に一度リフレッシュ休暇を取得している。就業中の職員の事故怪我などが発生した場合は自法人内で情報共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の事前研修・新任・中堅・指導職研修の階層別研修を計画的に実施している。また自法人内の委員会主催の身体拘束ゼロ、虐待防止、感染症対策、事故防止等の研修を受講したり、外部の研修・自己啓発の勉強会や研修の情報を提供している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着サービス部会の研修や地域ケア会議へ参加をする事で、同業者や福祉・医療関係者との関係作りの機会がある。他法人の地域密着型サービス事業所からの訪問もあつたり、自法人主催の研修会で他法人職員を招いて講師をして頂く事もある。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にホームでの生活の様子をお伝えし、安心・納得していただけるよう取り組んでいる。入所後は、ご本人の意見を聞き、出来る限り対応出来るように支援している。又、日々の様子を観察し変化に応じて支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接で聞き取りをし困っておられる事をお聞きすることで安心して生活できるように支援している。又入所後も必要に応じ連絡を取り合い情報交換をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の調査でご本人の生活課題や環境を調査し、担当ケアマネとの連携や他事業所の受け入れ情報を聞き取ることがある。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯干し・洗濯たたみ・手芸や工作。、食事作りなどの得意とする事を職員と一緒にいき支援している。時には一緒に散歩したり外作業も一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の状態や日常の様子をご家族へ電話でお伝えしたり、写真付きでお手紙を送付している。時には電話の取次ぎを行いご家族とのつながりを持っていただいている。病院受診も職員が同行し、ご家族の都合に合わせて対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みのある場所へ出かけるなどの支援、工夫をしています。現状、外出に制限があるので、利用者の馴染みのある写真やテレビ等を見ていただく、屋内で可能な支援を心がけています。	コロナ禍の制限下において、利用者の意向に沿った外出には制限が生じていますが、自動車での移動で車内から訪れる等、可能な範囲の場への訪問機会確保に努められています。手紙や電話等出来る繋がり継続維持に配慮されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者と共に作業する事で楽しみを持っていただいたり、利用者同士の関係性を築いていただくなどの取り組みをしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も職員とご家族やご本人と連絡を取ったり、他施設へ移られた方に、ご利用者からの贈り物をお届けしたりしました。入院により契約が終了した場合も経過をお聞きしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の日常の会話の中でご本人の思いや希望をお聞きし、その人らしく暮らして頂けるように支援している。	利用開始時に基本的な趣味嗜好等を聴取されています。入所後は、日々の支援や入浴時等の何気ない会話の中から、利用者の真意や思い、得意等を把握できるよう努められています。	利用者が意思表示可能なうちに、ACP(人生会議・終末期の意向・急病時等の意向等)の拡充を行うと、利用者のさらなる利益と利用者本位の促進に繋がるかと思われます。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やケアマネ、在宅サービス事業者よりこれまでの生活の様子などを情報提供してもらったり、ご本人と会話し昔のことをお聞きする。面接記録を確認するなどして把握できるように取り組んでいる。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の生活状況をケース記録に残し健康チェック・食事量・月1回の体重測定・排泄・取り組まれた活動を記録し一人一人の現状把握に努めている。		
26	(10)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、ユニット会議で利用者のケアプランの見直しを行っている。ご家族の面会や電話があった時には利用者の日常の様子や状況をお伝えしている。	4ヶ月に一回、ユニット会議の中でアセスメントが行われ短期目標の検討が行われています。ユニット会議で検討された内容を基に、次回の短期目標へと繋がられています。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス計画書やモニタリングのチェックを行い、ユニット会議やケアマネジャーの話し合いの場を設けている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方であったり都合のつかない時は医療機関との連携や同行支援をしたり、送迎や買い物など必要に応じて柔軟な対応を行っている。(現在はコロナ対応により買い物の同行は行っていません。外出は受診や施設の外作業や散歩などに限らせていただいています。)		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本来であれば地域行事やボランティア団体との交流を行っているが、コロナ禍の為、外部との接触は控えさせていただいています。施設内で取組に力を入れています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前のかかりつけ医の継続や急な場合、その他の必要な時は職員が同行し支援している。かかりつけ医に健康度相談したり、その他の医療機関へ紹介状を書いてもらったりその内容をご家族に報告している。</p>	<p>かかりつけ医は、利用者意向によって決められています。専門医等への受診や急な受診には、職員対応で受信されています。施設と、かかりつけ医の良好な関係性が継続し、利用者の利益に繋がるように、日常からの情報共有に配慮されています。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師の配置はないのでかかりつけ医やかかりつけ医の看護師に情報提供し連携を図っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>緊急搬送の際、専用の情報連絡用紙を使用したり、2か所の総合病院との協力医療機関契約を締結している。市内の医療機関や福祉施設、サービス事業者が出席する地域ケア会議にて連携を深めている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>施設の設備や人員配置体制を含め、ホームで出来ることや対象となる状態等を契約時にお伝えしている。現在ターミナルケアは行っていない為、そのような時期には、ご家族へご説明し他入所施設との連携や総合病院の連携室と連絡調整を行っている。</p>	<p>重度化終末期の方針は、入居時に説明が行われています。終末期対応が必要な場合は、同一法人内の特別養護老人ホームを中心に、利用者が最適な医療を受けられる環境へ引き継げるよう配慮されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員が定期的に救急救命講習を受講しており、AED使用手順と応急手当や初期対応についての訓練を受けている。又、事故防止の委員会活動やヒヤリハット、食中毒の防止、感染症予防対策を行っている。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎年消防署より消防設備、避難経路の点検や消防訓練への立ち合いなどで訪問していただきアドバイスをいただいている。</p>	<p>現在事業継続計画(BCP)の策定が進められており、BCPを基本とした各種災害対策やリスクマネジメントの整備が進行中です。火災・水害に関する訓練が実施されています。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・高齢者虐待に関する研修を行い、利用者の尊厳や人権、プライバシーの保護に徹底しています。業務のなかで不適切なケアに気付いた時は職員間で話し合うなどの対応をしています。業務中でも利用者に関する内容を話す場合は配慮に努めている。	言葉かけによって、利用者の尊厳が損なわれるように繋がらないよう、心がけられています。生活介助の中でも、利用者が不快に思わない接し方、さわり方に配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で利用者の好きな事や、やりたい事を聞き取って実践出来るよう工夫しています。特に食事の面では、誕生日にその方の好きな食べ物を提供しています。その日人がやりがいを感じていただける事は積極的に行い支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活スタイルに合わせた臨機応変な対応を常にこころがけています。可能な範囲で外に出て気分転換していただく等している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴・更衣の際に本人の好きな衣類を選んでいただいたり、好みの服を聞き取って家族様に購入を依頼しています。以前は利用者と共に買い物へ行く支援を行っていましたが、コロナ禍のため現在はしていません。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事作りをしたり、誕生日には利用者の希望を伺い好きな食べ物を提供しています。現状、外食する機会がありませんが食事・おやつレクとして、普段提供出来ない食事を考え利用者を楽しんでいただける取り組みをしています。	外出制限が続いた中、食事・おやつをレクリエーションとして拡充する事で、楽しみの拡充、外出できないストレスの低減に繋がられるよう努められています。利用者参加のおやつ作りでは、作る楽しみ、食べる楽しみを得ながら和気藹々とすごされていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	野菜を多く使用したおかずを意識して、塩分を控えめに利用者一人一人に合った食事量を提供しています。定時の時間に牛乳入りのカフェオレやお茶の提供を行っています。		



自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の洗浄、居室での歯磨き、口の体操を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用して利用者の排便、タイミング、量を把握。トイレ誘導やパット交換の時間を考えて利用者の体調を常に確認しています。	利用者が、排泄自立の維持を意識し、自ら排泄自立を維持していこうという意欲を持てるように心がけられた、排泄支援の提供に努められています。排泄の誘導声かけ時には、利用者の尊厳を損ねないように配慮されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を常に記録に残して薬だけでなく食事やレクリエーションでの運動等、様々な観点で工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や日程を本人から伺い、衣類を一緒に選んでいただく等の工夫をしています。	利用者の意向を大切に、入浴頻度やタイミングにそえるよう努められています。利用者がリラックスして楽しめる時間となるよう配慮されており、利用者の本音や昔話、意向や趣味嗜好の把握の機会としても大切にされています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースで休んでいただき、居室内の温度調整や加湿、寝具の清潔を保つ為、定期的に洗濯をするなどの支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書の把握と管理、利用者の体調の変化にいち早く気づき薬の調整や処方を病院へ相談している。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との関わりの中でその方の得意とされる事を聞き取り、日常生活の中で利用者の能力を発揮できる支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出に制限がある中で可能な範囲で散歩に出かけたり施設周辺や、畑で職員と共に作業していただいています。	コロナ禍の制限下において、従前のような自由な外出は困難ですが、施設周辺の海辺への散歩や、自動車による車内から景色や思いの場と接する機会確保に努められています。花見や紅葉時には、自動車による外出で、車内からの鑑賞が出来るよう配慮されています。感染症対策を踏まえた、家族支援による個別外出が活用されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご希望の方に居室に少額の金銭の所持をしていただいている。ここ数年はコロナ対策の為、外出や買い物・夏祭りなど実施出来ていない為、対外的にお金を使用する機会を作ることができていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用してもらい取り次ぎをしています。リモートでの対話も行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にトイレや居室などの場所が分かるよう名前を付けています。季節感を感じていただけるよう四季感のある壁飾りを飾って雰囲気を楽しんでいただいています。	椅子・机・ソファ等が複数設置されており、利用者個々がすしやすい場を選択し、自分の居場所・スペースの確保が出来るように努められています。壁面には、利用者と職員と一緒に作った季節の装飾や、利用者の作品等が飾られています。利用者自身が自分の部屋を認識しやすいように、利用者自身が工夫した、目印となる装飾品等が掲出されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が楽しく過ごしていただける環境、雰囲気作りに努めています。両ユニットの交流の機会も設けていますが、コロナ禍のため現在は制限させていただいています。利用者が孤立しないよう席の並びにも工夫をしている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みあるものを依頼、家族様の写真や、施設で一緒に作った工作等を飾り居心地の良い環境作りに努めています。	畳個室が基本構造ですが、利用者の状態によって、ベット導入も行われています。利用者の馴染みの品や思いのある写真等が持ち込まれ、配置されています。自宅での居室環境の再現に取り組まれている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に居室やトイレお風呂場などが分かるよう名前や目印をつけています。利用者の生活の妨げにならないよう、整理整頓をこころがけている。出来る方には居室の掃除をしてもらう等の支援をしています。		